

読書体験を深めよう！

学年

1年

単元・教材名

みんなでもう「大きなかぶ」

単元の主な学習活動

(全8時間)

ねらい	主な学習活動
<p>知っている民話を話すことを通して、民話への興味・関心を高めることができる。</p>	<p>知っている日本の民話を、どんな話か思い出して話す。(登場人物やあらすじを押さえながら再話する。) (1時)</p>
<p>紹介した外国の民話を進んで読んでみようという意欲づけをすることができる。</p>	<p>外国にも民話があることを知り、「大きなかぶ」の読み聞かせを聞く。 (教室に常時置いておき、休み時間に読むことができよう配慮する。)</p>
<p>登場人物を確認することができる。学習課題を設定し、学習の見通しをもつことができる。</p>	<p>どんな人物が出てきたか、ワークシートに書いて確認したり、簡単な動作化をしたりした後、「出てきた人になって、大きなかぶ劇場をしよう。」という学習課題を設定する。 [いつ、どこで、だれに発表するのかも設定する。]</p>
<p>あらすじを押さえながら、内容の大体をつかむことができる。</p>	<p>「大きなかぶ」を音読し、あらすじや出てくる登場人物の順番をつかむ。 (2時)</p>
<p>場面の様子や登場人物に着目し、想像したセリフや動作をシナリオに書くことができる。</p>	<p>教材文をもとにして、シナリオを作る。 (3～4時)</p>
<p>言葉の繰り返しやリズム、想像したセリフや動作を劇にすることを楽しみながら、声に出して読むことができる。</p>	<p>グループごとに役割を交代しながら、劇をする。 (5時)</p>
<p>劇化しながら、繰り返しやリズムを楽しむことができる。</p>	<p>グループの中で配役を決めて、劇のリハーサルをする。 (6時)</p>
<p>登場人物や場面の様子を想像しながら、劇遊びをすることができる。</p>	<p>保護者や他学年、あるいは園児を招待して劇を見てもらい、感想をふり返りカードに書く。 (7時)</p>
<p>他の外国の民話に興味を広げ、登場人物に着目し、想像を広げながら話の世界に浸ることができる。</p>	<p>他の外国の民話を読む。 (8時:学習活動へ)</p>
<p>おすすめの本を友達に紹介することができる。</p>	<p>(朝の会のスピーチにおいて)読んだ本を紹介する。</p>

学習活動（ 8 / 8 時間・朝活動や休み時間・朝の会でのスピーチの時間）

活動の流れ	留意点
<p>1 めあてをつかむ。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">好きな外国の昔話を見つけよう。そしてグループの友達に紹介しよう。</p> <p>2 いろいろな他の外国の民話を読む。</p> <p>3 好きな本をグループの友達に紹介する。 ・本の題名 ・だれが出てきたか。 ・どんな話か。(あらすじ) ・好きな場面</p>	<p>「繰り返しが楽しめるもの」「ストーリーが簡潔なもの」「役割関係がはっきりしているもの」「せりふが長くないもの」、これらの観点から選んだ外国の民話を準備しておく。</p> <p>*『しあわせなふくろう』オランダ民話 *『うさぎのみみはなぜながい』メキシコ民話 *『とうもろこしおばあさん』ネイティブアメリカン民話 *『まほうのたいこ』ロシア民話 *『シーフカ・プールカまほうの馬』ロシア民話 *『ブックマインチャ』ネパール民話 等</p> <p>グループで輪になり、どんな本なのか分かるように、本を見せながら紹介する。</p>
<p>(朝活動や休み時間)</p> <p>1 紹介し合った本の中から、グループごとに好きな本を選ぶ。</p> <p>2 紹介した子がグループの友達に読み聞かせをする。</p> <p>3 ナレーターや登場人物の役割分担をする。自分になりきる人物がどんなことを話したのか、どんな顔の様子なのか、どんな動きなのか考える。</p> <p>4 グループで劇の練習をする。</p>	<p>実際に本を手にとらせ、内容を確認させながら、選択させる。</p> <p>「大きなかぶ」で学習したシナリオ作りを生かして、他の外国の民話を簡単な劇にする。想像したセリフや様子について、どの子の想像も認めて意欲化を図る。</p>
<p>(朝の会でのスピーチの時間)</p> <p>1 グループごとに劇を紹介する。 ・紹介したら、見ていた子は楽しかったことを話す。</p> <p>2 教師も話の楽しさやよさを話し、まとめる。</p>	<p>外国の民話の世界をみんなで楽しむことができるよう、よさを認め合う場を設定する。</p> <p>教師は、グループの劇のよさと劇化された本に興味をもつような内容でまとめる。</p>

読書体験を深めよう！

学年

2年

単元・教材名

お話の国たんけんにいこう「お話がいっぱい」「こんなお話考えた」

単元の主な学習活動

(全13時間)

ねらい	主な学習活動
ブックトークや読み聞かせを聞いたり、自分で好きな絵本を読んだりしながら話のおもしろさを味わう。	先生のブックトークや読み聞かせを聞き、読みたい本を選ぶ。 話を読んだ感想を発表する。(1～2時 学習活動へ)
読んだ絵本のおもしろかったところや考えたことを見つけることができる。	読んだ絵本のおもしろかったところを見つけたり、考えたことをカードに書いたりする。(3時)
お話作り、絵本作りに必要なことについて理解することができる。	教科書の絵を見て、人物場面の設定や話の流れなど全体のあらましを考える。(4時)
教科書の作品例を見て、表現の工夫を見つけることができる。	教科書の作品例を見て、いろいろな表現の仕方を考える。(5時)
三枚の絵を見比べて、話の順序を決め、「お話」の構想を立てることができる。	作品例の表現を参考にして、絵の順番をきめ、話がつながるように構想を考える。(6時)
三枚の絵をもとに、順序や題名を工夫して書いたり、自分の考えが明確になるように、簡単な組み立てを考えて書いたりすることができる。	構想メモをもとに、お話の順序を考えたり、会話文を入れて書いたりする。(7時～8時)
自分で読み返し、誤字・脱字を直したり、足りないところをつけたしたりする。	自分で読み返したり、友達に読んでもらったりして、誤字・脱字を直したり、より相手に伝わる書き方を工夫する。(9時)
レイアウトを考え、絵を書いて清書する。	句読点の打ち方やかぎ「」の使い方を理解して、正しく書く。(10時～11時)
後書きと作者名を書き、表紙を作って製本することができる。	三つの場面をつなげ、絵や表紙を工夫して作品を仕上げ。(12時)
作品を互いに読み合い、感想を交流することができる。	友達と作品を交流し、感想を発表する。(13時)

読書体験を深めよう！

学習活動（1～2/13 時間）

活動の流れ	留意点
<p>1 本時の課題を確かめる。</p> <div data-bbox="172 414 794 510" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>お話ヲドをたんけんして、大すきな本をみつけよう。</p></div> <p>2 ブックトークを聞く。 (くまの子ウーフ・王さまと九人のきょうだい・よかったね ネットくん・かあさんになったあーちゃん)</p> <ul style="list-style-type: none">・「よかったね ネットくん」の国に行きたいな。・「王さまと九人のきょうだい」の国もおもしろそうだ。 <p>3 読み聞かせを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none">・おもしろそうだな。・自分でも読んでみたいな。・違うお話の国にも行ってみよう。 <p>4 自分の気に入ったお話を読む。</p> <ul style="list-style-type: none">・「くまの子ウーフ」の国は長そうだな。友達と一緒に読もう。・司書の先生や担任の先生に読んでもらいたいな。・王さまと九人のきょうだいはおもしろかったな。他の国にも行ってみよう。 <p>5 たんけんした国(本)の感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none">・お話の国たんけんは楽しかったな。・残りの4つの国はどんなお話が楽しみな。	<p>意欲的に本を読む活動に取り組めるように、たんけんをキーワードに学習を進める</p> <p>教室を4つの国に分け、本の題名を書いた看板を掲示して子どもたちが意欲的に活動できる環境を設定する。</p> <p>お話の本に興味を持たせるために、司書によるブックトークを行う。</p> <p>教科書に紹介されている作品以外にも、同じ作者の本や、シリーズ本の紹介を行う。</p> <p>自分がどの国へ行ってみたいかを考えながら、教師の範読を聞く。</p> <p>4つの国の地図が書かれたカードを作成し、その国を探検したら、地図に色を塗るように促す。</p> <p>自校の図書館以外にも、市の図書館や他校から本を借りるなどして、十分な本の冊数を準備しておく。</p> <p>好きな本が見つからない子には、教師が読み聞かせをしたり、友達と読むことを促したりする。</p> <div data-bbox="893 1556 1404 1765" style="border: 2px solid black; padding: 10px;"><p>< 感想の観点 ></p><ul style="list-style-type: none">・本を読んで思ったこと。・気に入ったところ。・おもしろかったところ。</div> <p>次回探検する国「本の題名」を紹介し、次時への意欲付けをする。</p>

読書体験を深めよう！

学年

5年

単元・教材名

読書の世界を広げよう「千年の釘にいどむ」「本は友達」

単元の主な学習活動

(全13時間)

ねらい	主な学習活動
読書の楽しさについて考え、読書会を開く計画を立てることができる。	好きな本の発表し合いなど、自分の読書生活を振り返る。めあて「読書会を通して、自分の考えを深めよう」をもち、学習計画を立てる。(1時)
「千年の釘にいどむ」を読み、感想を交流することによって、自分のものの見方や考え方を深めることができる。(第1回読書会)	「千年の釘にいどむ」を読んで、話し合いたいことを出し合う。 グループで第1回読書会のテーマを決め、それに沿って、感想をノートにまとめる。 グループでテーマに沿って感想を話し合い、友達の考えを聞くことで自分の考えを深める。 読書会で深まった自分の考えを中心に感想文を書く。(2～5時)
読書会で、テーマに沿って本を紹介し合ったり、自分の考えを分かりやすく伝え合ったりして、読書の世界を広げ、深めることができる。(第2回読書会)	第2回読書会の計画を立てる。 グループで決めた読書会の方法に沿って、本を探して読む。 読書会に生かせるように、本の内容や感想をノートに整理してまとめる。 読書会に備えて話の組み立てを考えてメモを作り、話す練習をする。 読書会を開き、テーマに沿って本を紹介したり、自分の考えを分かりやすく伝えたりして、意見交流をする。(6～10時：学習活動へ)
読書会を開いて深まった考えを書き、活動の振り返りをし、今後の読書生活への意欲をもつことができる。	読書会をして深まった考えを中心に、感想を書くためのメモを作る。 メモをもとに感想を書く。 感想を読み合い、活動を振り返る。(11～13時)

学習活動（6～10 / 時間）

活動の流れ	留意点
<p>1 グループで読書会の計画を立てる。(読書会の方法、会の進行の仕方や話し合いの進め方、ノート作りなど)</p>	<p>同じ本を読んだ感想を伝え合う会・同じ作者の別の本を読んで感想を伝え合う会・同じテーマで書かれた別の作品を読む会など、読書会の方法を紹介する。</p> <p>同じ本を読んだ感想を伝え合う読書会では、話し合いが深まるように本の選定の際にグループに助言に入る。</p> <p>同じテーマで読書会を開く場合のために、テーマの紹介をする。(冒険、夢、環境、民話、動物、戦争、福祉、生き方など)</p> <p>同じテーマで読書会を開く場合は、テーマに応じた本の紹介ができるように司書の方にT・Tをお願いしたり、授業を図書館で行ったりして本がすぐ探せるようにする。</p> <p>同じ作者の本を読んだ読書会では、作者の主張や言いたいこと、共通点などを話し合うとよいことを紹介し作者を決めるときにグループに助言に入る。(椋鳩十、星新一など)</p>
<p>2 グループで決めた読書会の方法に沿って本を探して読み、目的に合うように内容や感想をノートに整理して書く。</p>	<p>しおりや付箋に感想を書き、本に挟んだり付けたりする方法を紹介する。</p> <p>印を付けた個所の本文と感想をノートに書く方法を紹介する。</p> <p>読書会に生かせるように、どんな項目でメモをするとよいか考えさせる。</p>
<p>3 話の組み立てを考えて分かりやすく伝えるための練習をする。</p>	<p>ノートのメモをもとに、自分の考えが分かるように話の組み立てメモを作成させる。</p> <p>分かりやすく話すための方法を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を見せる。 ・音読を入れる。 ・視写した言葉や文章を見せる。 ・挿絵を見せる。 ・登場人物の関係図を示す。 ・キャッチコピーを示す。 ・本の帯を作る。 ・ポスターを作る。 <p>一人あたりの時間を決めておく。</p>

<p>4 読書会を開き、話題に沿って、本を紹介したり自分の考えを分かりやすく伝えたりする。</p>	<p>場の設定を工夫し、互いのグループの音がじゃまにならないようにする。</p> <p>プログラムを作成したり、資料を貼る掲示板を用意したりする。</p> <p>グループの司会者に、会の進め方の手引きを渡しておく。</p> <p>進め方の例</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めの言葉 会の進め方の確認 本の紹介 テーマについての話し合い 感想を書く 終わりの言葉
<p>5 読書会を開いて深まった自分の考えが明確に伝わるように感想を書き、活動の振り返りをする。</p>	<p>読書会を通して、自分のものの見方・考え方が広がったり深まったりしたことに目を向けさせる。</p> <p>読書会で紹介した本を学級文庫に置くようにし、読書生活がさらに広がるように工夫する。</p>

読書体験を深めよう！

学年

6年

単元・教材名

表現を味わい、豊かに想像しよう 「やまなし」「イーハトーヴの夢」

単元の主な学習活動

(全9時間)

ねらい	主な学習活動
<p>「やまなし」に描かれた情景を、叙述に即して想像しながら読み、読みの視点を作ることができる。</p> <p>場面ごとに出来事や描写を読み取りながら、比喩表現など優れた言葉の使い方を味わい、「五月」と「十二月」を対比して読むことができる。</p> <p>資料「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方をつかむことができる。</p> <p>宮沢賢治の他の作品を読み、賢治の生き方や考え方について分かったことを発表することができる。</p>	<p>単元名を読み、情景を想像して読むこととおさえ、学習のしかたについて確認する。題名と冒頭の一文から、読みの視点を作り、全文を読む。(1時)</p> <p>二枚の幻灯から、小さな谷川の「水面」「水中」「川底」の様子を簡単な言葉や図で表し整理する。(2時)</p> <p>「五月」の幻灯から、情景描写や美しい比喩及び「かわせみ」の出現で変化していくかきの兄弟の様子を読む。(3時)</p> <p>「十二月」の幻灯から、情景描写や温かい比喩及び「やまなし」の出現で変化していくかきの兄弟の様子を読む。(4時)</p> <p>「五月」と「十二月」の場面の違いについて、感じたことを交流し、二枚の幻灯から作者の思いを考える。(5時)</p> <p>「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方やものの考え方について感想を交流し合い、賢治の他の作品に興味をもつ。(6時)</p> <p>「やまなし」と比べながら、賢治の他の作品の読み聞かせを聞いたり、自分で探して読んだりする。 自分が選んだ作品の紹介カードを書き、「読書発表会」を行う。(7～9時：学習活動へ)</p>

学習活動(7～9 / 9時間)

活動の流れ	留意点
<p>1 宮沢賢治の他の作品の読み聞かせを聞き、他の作品に興味をもつ。</p>	<p>宮沢賢治の世界に浸らせるため、単元導入時から、賢治のいろいろな作品を教室に置いておき、児童が読みたいときに本を手にすることができるよう環境を整備しておく。</p> <p>「注文の多い料理店」「セロ弾きのゴーシュ」「よだかの星」「オッペルと象」など、分かりやすく、短時間で読める作品がよい。</p>
<p>2 自分が読みたい作品を選び、「やまなし」と比べながら読む。</p>	<p>読書する時間を設定する。作品によっては時間が足りないことも考えられるので、家庭学習などの時間で補充する。</p>
<p>3 読んだ作品の中に、賢治のどんな考え方が表現されていたかを、同じ作品を読んだ子どうしで話し合う。</p>	<p>作品全体から賢治の生き方や考え方を探るとともに、どんな表現から賢治の考え方が分かったかを考えさせる。</p>
<p>4 作品を読んで心に残った場面や感想を「紹介カード」に書き、「やまなし」と似ているところや違うところを発表する。</p>	<p>「紹介カード」には、「心に残った場面の絵」を簡単に描けるスペースを設けるなどすると、文章を書くのが苦手な児童も意欲的に取り組める。</p> <p>「感想」は、「作品の主題」や「本から学んだこと」「宮沢賢治の他の作品との共通点」などの視点を示して書かせるとよい。</p> <p>「紹介カード」の下の方に「友達から」というスペースを設け、あとからその作品を読んだ子の感想を付け加えられるようにしておく、自分の「紹介カード」に対する他の子の反応も分かり、今後の読書生活をより意欲的にすることができる。</p> <p>同じ作品を読んだ子どうしで交流させると、より考えが深まる。</p>
<p>5 友達の「紹介カード」を読んだり発表を聞いたりして、自分がこれから読んでみたい宮沢賢治の作品を探す。</p>	<p>全体で発表を行ってもよいが、違う作品を選んだ子でグループを作り交流してもよい。また、発表したあとは、教室に掲示して、いつでも見られるようにしておく。</p> <p>作品を読んだあとは、友達の「紹介カード」に必ず一言書いたりサインしたりするようにする。また、付箋状の「感想カード」を作り、「紹介カード」に貼っていく形でもよい。</p>

読書体験を深めよう！

【指導者用資料】

読書意欲を高める蔵書の整備

新刊の選定

児童に読ませたい図書をできるだけたくさん並べ、全校児童・保護者・地域の読み聞かせサークル・公立図書館関係の人などが、実際に手にとって、購入する本を選定する。



公立図書館との連携

岐阜県図書館との連携を図り、調べ学習用の本や絵本などを学校に貸し出ししてもらう。

読書意欲を高めるための活動の工夫

読み聞かせ

- ・全職員で読み聞かせを行う。児童は、自分たちが選んだ本の会場へ行って本を読んでもらう。
- ・地域の読み聞かせサークル、保護者や祖父母にも読み聞かせに参加してもらう。
- ・ALTに、日本でもおなじみの「はらぺこあおむし」「きょうはみんなでくまがりだ」などの本を英語で読んでもらう。

スタンプラリー

- ・教師のおすすめの本を読む。
- ・本を読んだら、その本を紹介した教師に問題を出してもらい、スタンプを押してもらう。本を通じてコミュニケーションを図る。
　　<問題例>「好きな登場人物は誰?」「主人公をどう思うか?」
- ・スタンプがそろったら、図書委員に報告する。

「偉人伝を読もう。」

- ・世界地図や日本地図を活用し、偉人の出身地をチェックしていく。

読書紹介活動

- ・読書クイズ
- ・読書すごろく（作品の内容をすごろくにし、遊びの中で紹介する。）
- ・記者会見（読んだ作品について紹介し、その作品についての質問に答える。聞き手は紹介された本について記事にする。）
- ・作品についての1行感想を集め、編集する。



多読賞

- ・クラスである期間の読書冊数の目標を決め、取り組んでいく。
- ・月別多読賞や1年間に100冊以上読んだ多読者などを紹介していく。

読書パズル

本のカバーを切ってパズルを準備する。児童が1冊読むたびにパズルの1ピースをはめていく。



必読図書読破賞

- ・校長との本を通じてのコミュニケーションを図るため、必読図書を読み切った児童に校長手づくりのしおりをわたす。

新刊貸し出しの工夫

- ・図書委員が優先的に新刊を読み、他の児童は紹介された新刊から借りる。少しずつしか借りることができないため、予約制にする。予約して読むことにより児童の読書意欲を高める。
- ・あらかじめ入る本を知らせて、貸し出す日を指定することにより目当ての本を競って借りることにつなげる。



図書室でのイベント

- ・図書室にある本を参考にして、あやとり、折紙などを紹介していく。または、図書室で百人一首大会や辞書早引き大会を行うなどして、図書室の楽しい活用のイメージをふくらませる。

読書環境の充実

ミニミニ図書館

- ・人気がある本は全校児童が目にも触れる児童玄関におき、すぐに借りることができるようにする。

図書室の環境整備

- ・特設コーナーの設置（おすすめの本、話題の本、人気の本、季節の本など）
- ・雰囲気づくり（ゆったりとした気分で読書できるよう、観葉植物、座布団・クッションや、くつろげる椅子などを置き、居心地をよくする。）

読書相談の充実

- ・決まった時間に職員がつき、児童からの読書相談に応じる。利用時には職員や委員会の児童がいる図書館経営に心がける。

読書体験を深めよう！

【中学校用】

学年	単元・教材名	読書活動	
1	本の世界を広げよう 「ゼブラ」	読書郵便を出そう。	指導案1へ
2	本の世界を広げよう 「さつき」	お薦め本の宣伝カードを作ろう。	指導案2へ
3	本の世界を広げよう 「高瀬舟」	心に残った名言・名句を 詞華集に残そう。	指導案3へ
選択	読書体験を深めよう	もしも、話の最終場面で、 主人公が思いがけない行 動をとったら、物語はど うなる？	指導案4へ

読書体験を深めよう！

< 指導案 1 >

学年

1年

単元・教材名

本の世界を広げよう ～読書郵便を出そう～

単元の主な学習活動

(全4時間)

時	ねらい	主な学習活動
1	<p>学習の目的や流れを知り、学習の見通しをもつことができる。</p> <p>読書郵便に書く内容を考えることができる。</p>	<p>読書郵便の見本を見て、読書郵便のイメージをもつ。 過去の作品をコピーして見本として見せる。</p> <p>「読書郵便」に書く内容を考え、話し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・本のタイトル ・作者名・作者の紹介 ・キャッチフレーズ ・簡単なあらすじ ・本のジャンル ・読んで心に残ったところ ・読んでおもしろいと思ったところ <p style="text-align: right;">など</p> </div>
2	<p>読書郵便作りの準備をすることができる。</p>	<p>読書郵便を書く準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送る相手を決める。 ・次のようなところをピックアップして、本に付箋を貼る。
3	<p>読書郵便を作ることができる。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・引用したい場面 ・心に残った場面 ・考えが広がったり深まったりした場面 <p style="text-align: right;">など</p> </div> <p>送りたい相手にどんなことを伝えたいかを整理して、読書郵便を作り上げる。</p>
4	<p>各自が書いた読書郵便を交流することができる。</p> <p>相手に届け、感想等を聞くことができる。</p>	<p>隣り同士やグループで完成した作品を見せ合って交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よい点やさらに改善すべき点について指摘し合う。 <p>切手を貼って郵便で届けたり、校内の友人や先輩に直接届け、後日感想等を聞く。</p>

読書体験を深めよう！

< 指導案 2 >

学年

2年

単元・教材名

本の世界を広げよう ～お薦め本の宣伝カードを作ろう～

単元の主な学習活動

(全4時間)

時	ねらい	主な学習活動
1	<p>学習の目的や流れを知り、学習の見通しをもつことができる。</p> <p>「宣伝カード」に書く次の意識を確認し、内容を考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手意識 ・目的意識 ・場面意識 ・条件意識 ・評価意識 	<p>近くの本屋さんを思い出し、どんな宣伝がしてあると本を手に取りたくなるか、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カード ・帯封 ・しおり <p>過去の宣伝カードを見本に、自分のカード作りのイメージをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本の宣伝を行なうことを考え、不特定多数の相手を意識して作成できるようにする。 <p>「宣伝カード」に書く内容を考え、話し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・本のタイトル ・作者名・作者の紹介 ・キャッチフレーズ ・簡単なあらすじ ・本のジャンル ・こんな人に読んでもらいたい ・おもしろいところ、お薦め部分 ・賞受賞 </div>
2	<p>「宣伝カード」作りの準備をすることができる。</p>	<p>自分のお薦め本を決め、宣伝カードを書く準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次のようなところをピックアップして、本に付箋を貼る。
3	<p>「宣伝カード」を作ることができる。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・引用したい場面 ・心に残った場面 ・考えが広がったり深まったりした場面 </div> <p>など</p> <p>本に合ったカードの書き方を工夫して、カードを作り上げることができる。</p>
4	<p>ブックスタンドに展示して、お互いの本を借り合うことができる。</p>	<p>展示室または教室を「1年組書店」と位置付け、仲間の紹介する本や宣伝カードをじっくり読み合う。</p> <p>借りたい本を決めて読む。</p>

読書体験を深めよう！

< 指導案 3 >

学年

3年

単元・教材名

本の世界を広げよう
～ 心に残った名言・名句を詞華集に残そう～

単元の主な学習活動

(全3時間)

時	ねらい	主な学習活動
1	<p>「詞華集」の形態や形式を理解し、活動の見通しをもつことができる。</p> <p>提案された項目に合わせて詞華集に入れる中身を考えることができる。</p>	<p>教師の作った見本の「詞華集」をじっくり見て、作品作りのイメージをもつ。</p> <p>詞華集の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものの見方や考え方を広げてくれた表現 ・心に残った表現 ・繰り返し口ずさみたくなる表現 ・自分の尊敬する人物の言葉 ・自分を励ますときに読みたくなる表現 ・優しい気持ちになりたいときに読みたい表現 <p>・台紙・用紙、文字の書き表し方を工夫する。</p>
2	<p>これまでに読んだ本の記録（読書カード）から、「詞華集」に使いたい本を選んだり、新しく探したりすることができる。</p> <p>詞華集を作ることができる。</p>	<p>自分の読書カードから、詞華集に使いたい本を探し、取り上げたいページに付箋を貼る。 新たに本を読んで、詞華集に使いたいページに付箋を貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな表現でその名言や名句を紹介するか考えてメモする。 <p>用紙や文字の書き方などを工夫して、丁寧に作品作りをする。</p>
3	<p>仲間の詞華集を読み味わうことができる。</p>	<p>仲間の作品を展示室などに掲示して鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いに感想を交流し合い、紹介された本の中身を確かめる。

読書体験を深めよう！

< 指導案 4 >

『もしも、話の最終場面で主人公が思いがけない行動をとったら、物語はどうなる？』

～書籍『指輪物語』、映画『ロード・オブ・ザ・リング』を使って作品のおもしろさにふれよう～

対象

選択国語 2, 3年生

ねらい

作品の終了後のストーリーを自分なりに考えさせることで想像を広げ、作品を読むことのおもしろさに気付かせる。

準備するもの

- ・映画化された作品の映像と書籍（『ハリーポッター』、『ロード・オブ・ザ・リング』など）
できれば短いストーリーのものが良い。また、短期間で読み切れる程度の短い作品であれば映画化されていなくてもよい。（『バッテリー』、『DIVE』など）
- ・登場人物を分析するワークシート
- ・ビデオデッキおよびDVDプレーヤー

作品名

新版『指輪物語』全3巻（愛蔵版）瀬田貞二・田中明子訳 アラン・リー絵 評論社
第1巻『旅の仲間』 第2巻『二つの塔』 第3巻『王の帰還』

作品紹介

人間とそれ以外の種族が住む空想の世界である「中つ国」が作品の舞台となる。登場する人間以外の種族は、ホビット（小人）、エルフ（不死の種族）、ドワーフ（地底族）、トロール、オーク（悪の種族）とさまざまである。

主人公のフロド（ホビット族）は、叔父から、世界を自分の手に握ることができると言い伝えられている指輪を渡される。このような指輪が存在していると、世界が悪者の支配下におかれてしまうとフロドは考え、指輪を消滅させようとする。指輪を消滅させるためには、この指輪を狙っているサウロンと呼ばれる強大な力を持った王が君臨する国にある、滅びの山の火口に投げ入れなければならない。

フロドは、サウロンに指輪が渡ることに危機感をもつ人間や他の種族の仲間達と一緒に、指輪を消滅させるために、滅びの山に向かって旅に出る。途中、サウロンの部下の手で何度も身を危険にさらすが、最後まであきらめずに指輪を守り続け、ついに指輪を滅びの山の火口に投げ入れる。

時	ねらい	主な学習活動	留意点
1 長期 休 み 前	作品のその後のストーリーに興味をもち、読書活動を行うことができる。	<p>書籍『ロード・オブ・ザ・リング』を紹介する。 ブックトークを行ったり、映画化された『ロード・オブ・ザ・リング』を紹介したりすることで興味をもたせる。</p> <p>『ロード・オブ・ザ・リング』第1巻～第3巻を読む。 1時間の中では読み切れないことが予想されるため、長期休みを利用して計画的に読むよう伝える。</p>	
2	物語を作るために必要な登場人物の性別、性格、行動パターンについて分析し整理することができる。	<p>登場人物について、分析し整理する。 分析、整理の方法 性別、性格、行動パターン</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>(例) 主人公フロドは男性で、ホビットと呼ばれる小人である。指輪を受け継いでしまったため、自分が必ず指輪を守り、悪人の手に渡る前に消滅させようと使命感に燃えている。指輪を唯一、消滅させることができる山の火口に捨てようと、旅に出る。このようなことから責任感と正義感にあふれていると思う。 旅の間、指輪を肌身離さず身につけ、誰にもさわらせようとしない。途中、指輪を狙う者に襲われるが決して逃げない。</p> </div> <p>登場人物について整理するためのシートを準備しておく。 登場人物とは、それぞれの種族の代表としてフロドと共に旅に出た者すべてとする。</p>
3	主人公の思いがけない行動に対して、登場人物がどのように行動するのか、前時の分析結果をもとに考えることができる。	<p>主人公の次のような行動に対して、その他の登場人物はどのように考え、どう行動するのか考えさせる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>最終場面で、主人公が指輪を消滅させるために、山の火口に投げ込もうとした。もし、その時、主人公の正義感と責任感が一気に吹き飛び、指輪を自分の物にしようとしたら、この物語はどのように展開されるだろう。</p> </div> <p>登場人物一人一人がどのように行動するのかを、登場人物の性格などについて分析、整理したワークシートをもとに考えさせる。</p>
4	新しい物語の展開を考えることができる。	<p>登場人物と主人公を関わらせながら、新しい物語の展開を書きあげる。 掲示物として利用することを考えて、丁寧な文字で書かせる。</p>	
5	完成した物語を使い、作品交流会を行うことができる。	<p>清書した物語の交流会を行う。 交流会後、作品は図書館に作品紹介として掲示する。</p>	